

平成28年度

教育訓練実施計画



沖縄県消防学校

校訓

一 厳正な規律の保持

一 知識と技術の修得

一 体力と気力の練成

沖繩県消防学校校歌

作詞 滝田常晴
作曲 翁長武俊

一 瑠璃色の海 見はるかす

緑の邦の同胞を
守礼の邦の同胞を
火より水より 守り抜く
われら沖繩県消防学校
学ぶゆくてに 誇りあり

二 炎熱の夏 荒ぶ冬
磨き鍛える身と精神

いざことあらば さきがけて
錬磨の技にぬかりなし
われら沖繩県消防学校
励む月日に 誓いあり

三 デイゴの花のふるさとに

いそしむ日々の雨や風に
苦難を超えてたくましく
育む若木 実を結ぶ
われら沖繩県消防学校
進むゆくてに 栄光あり

目 次

I	基本方針	1
II	教育訓練の種類	
1	消防職員に対する教育	1
2	消防団員に対する教育	2
3	その他の教育(消防防災関係者)	3
	平成28年度教育訓練実施計画	4
	平成28年度教育科別諸経費内訳	5
	平成28年度教育訓練日程表	6
	教育内容及び時間数	
1	消防職員に対する教育	
(1)	初任教育	8
(2)	専科教育	
①	特殊災害科	1 1
②	予防査察科	1 2
③	危険物科	1 3
④	救急科	1 4
⑤	救助科	1 6
(3)	幹部教育	
①	中級幹部科	1 8
(4)	特別教育	
①	防火管理指導員研修	1 9
②	新任救急隊員(救命士)研修	1 9
③	救急救命士処置拡大研修	2 2
2	消防団員に対する教育	
(1)	基礎教育	2 3
(2)	専科教育(警防科)	2 3
(3)	幹部教育	
①	初級幹部科	2 3
②	指揮幹部科	2 4
(4)	特別教育	
①	現地教育	2 4
3	その他の教育(消防防災関係者)	
(1)	女性防火クラブ研修	2 4
(2)	自衛消防隊研修	2 4
	付 録	
○	関係書類作成要領	2 5
○	教育種別携行品一覧表	3 0
○	案 内 図	3 1
○	施設配置図	3 2

平成28年度消防学校教育訓練実施計画

I 基本方針

消防学校で実施する教育訓練は、消防職員、消防団員及び消防関係者に対し、消防の責務を正しく認識させ、社会情勢の変化や技術の発展に的確に対応するために、住民から期待される水準を充たす消防に係る知識及び技能の効率的かつ効果的な習得を図り、もって適切公正、安全かつ能率的に業務を遂行できる消防職員、消防団員及び消防関係者の資質を高めることを目指し行うものとする。

II 教育訓練の種類

1 消防職員に対する教育

(1) 初任教育

新たに採用された消防職員に対し、職務遂行に必要な基礎的知識と技術を習得させるとともに、人格の向上、体力と気力の練成、規律の保持、協同精神の醸成等の教育訓練を実施して、即戦力となる消防職員を養成する。

(2) 専科教育

複雑・多様化する各種の災害に対処するため、災害予防、救急処置、人命救助等の特定分野に関する専門職員を養成する。

① 特殊災害科

特殊物質に関する専門的知識を習得させ、特殊かつ異様な災害への対応を含め、災害の様態に応じた的確な消防活動要領及び隊員の安全管理を優先して適切かつ効果的な消防戦術の指揮技能を習得させる。

② 予防査察科

予防査察業務の現状と課題を理解させ、防火管理、建築規制、違反処理、消防用設備等に関する基本的な権限に基づき、公正・公平に執行できる専門的知識と違反対象物に対する是正技法等を習得させる。

③ 危険物科

危険物化学及び危険性物質の性状等を理解させ、各種実験を通して危険物規制に関する業務上必要な専門的知識と技術を習得させる。

④ 救急科

救急業務の現状と課題を理解させ、救急医学に関する基本的知識と応急処置に必要な解剖生理及び各科の疾病状況に関する専門的知識並びに専門的技術を習得させ、救急隊員の資格を取得させる。

⑤ 救助科

救助業務の現状と課題を理解させ、救助活動に関する専門的知識と技術を

習得させ、強靱な体力と気力を錬成させる。

(3) 幹部教育

組織の管理を職務とする長及び消防部隊の長又はその予定者に対し、事務執行体制のあり方、消防活動時における消防部隊及び隊員管理に必要な知識と技術を習得させ、組織運営を効率的・効果的に推進する幹部職員を育成する。

① 中級幹部科

中級幹部としての責任と立場を認識させ、消防施策立案、部隊員管理及び災害現場指揮概論を再認識させ、有機的な組織管理・運営に必要な知識と手法を習得させる。

(4) 特別教育

① 防火管理指導員研修

自衛消防隊の指導に必要な知識と技術を習得させる。

② 新任救急隊員（救命士）研修 ※救急救命士処置拡大の内容も含む

救急科を修了していない救急隊員（救急救命士）に対して、救急業務の現状と課題を再認識させ、さらなる専門的知識と技術を習得させる。併せて心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖投与等、病態に適した適切な薬剤の投与ができる知識と技術を習得させる。

③ 救急救命士処置拡大研修

心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖投与等、病態に適した適切な薬剤の投与ができる知識と技術を習得させる。

2 消防団員に対する教育

(1) 基礎教育

団員の階級にある者に対し、地域防災の担い手としての任務を理解させ、消防組織法の概要及び消防防災対策に必要な基礎的な知識と技術を習得させる。

(2) 専科教育(警防科)

消防団員として概ね三年以上の経験を有する者に対し、警防業務に関する知識及び行動原則並びに各種災害事象における消防団の役割及び活動内容を理解させ災害現場において中核的な活動要領を習得させる。

(3) 幹部教育

班長以上の階級にある者に対し、消防団の管理運営に関する知見を習得させると共に、災害対応時における指揮及び団員への訓練指導並びに地域住民に対する防災指導に必要な知識と技術を習得させる。

① 初級幹部科

消防団初級幹部としての責任と立場を認識させ、消防団の運営に必要な規律、安全管理及び災害活動要領を習得させる。

② 指揮幹部科

分団の指揮者及び災害時における現場指揮者としての責任と立場を認識させ、消防団の管理運営に関する知見を習得させる。併せて、安全管理及び的確な指揮技能を習得させる。

(4) 特別教育

① 現地教育

消防学校教官等を現地訓練要請町村へ派遣し、消防団活動に必要な知識と技術を習得させる。

3 その他の教育(消防防災関係者)

(1) 女性防火クラブ研修

女性防火クラブ員等に対し、消防に関する知識及び技術を習得させる。

(2) 自衛消防隊研修

防火管理者講習を修了した者に対し、消防用設備、消火器具及び避難器具等の取扱訓練を実施し、防火管理上必要な知識と技術を習得させる。

平成28年度 教育訓練実施計画

教育種別		延日数	実日数	教育時間	対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
						教育科別												
消防教育	初任教育（第48期）	173	116	812	新たに採用された消防職員	11					30							
	専科	10	8	56	分隊長等の職制にある者 又はその予定者								7	16				
	予防査察科（第12期）	12	10	70	予防業務に従事している者 又はその予定者										16	27		
	危険物科（第7期）	5	5	35	予防業務に従事している者 又はその予定者								14	18				
	救急科（第55期）	57	38	266	救急業務に従事しようとする者							12		6				
	救助科（第17期）	26	20	140	救助業務に従事しようとする者											13	10	
	職教幹部	9	7	49	消防司令又は消防司令補の階級にある者							19	27					
	特別教育	5	5	35	防火管理者指導に携わる者												13	17
	新任救急隊員（救命士）研修（第2期）	12	10	70	採用5年以内で救急科を修了していない救急救命士											20	3	
	救急救命士処置拡大研修（第2、3期）（2回実施）	5	5	35	認定を受けていない救急救命士											30	3	6
消防団員	基礎教育（第32期）	3	3	21	団員の階級にある者				27	29								
専科	警防科（第19期）	3	3	21	消防団員として3年以上の経験を有する者										18	20		
幹部	初級幹部科（第2期）	3	3	21	班長以上の階級にある者 又はその予定者								30	2				
指揮幹部科（第2期）	3	3	21	班長以上の階級にある者 又はその予定者								9	11					
教特育別	現地教育（移動消防学校）				消防本部の設置されていない町村の消防団員													
その他	女性防火クラブ研修（第21期）	2	2	14	女性防火クラブ員等												22	23
	自衛消防隊研修（第32期、第33期）（2回実施）	1 (2)	1 (2)	7 (14)	市町村の消防長が行う甲種防火管理者講習会を修了した者												15	16
計	17課程	330	240	1680														

平成28年度 教育課程別諸経費内訳

教 育 種 別	延日数	実日数	調査研究費	食 費	雑 費	合 計	備 考
初任教育（第48期）	173	116	142,749	130,100	64,235	337,084	調査研究費は、学生に支給する教科書等の購入費及び印刷製本費等である。ただし初任教育には、県外の消防施設の視察研修及び無線免許取得（第三級陸上特殊無線技士）のための費用等が含まれている。 食費は日額1,350円（朝370円、昼460円、夕520円）で、積算は教育訓練実日数で算出した。ただし休校日前日の夕食のほか、視察研修、実務研修の際の朝昼夕食等は給食しない。 雑費は、入校中における生活必需品等の消耗品費、諸行事費用、事務費等である。なお、女性防火クラブ研修、自衛消防隊研修には傷害保険料が含まれている。
専科教育							
特殊災害科（第6期）	10	8	7,328	9,390	4,067	20,785	
予防査察科（第12期）	12	10	17,040	12,090	5,216	34,346	
危険物科（第7期）	5	5	21,912	5,860	2,608	30,380	
救急科（第55期）	56	38	44,504	43,030	18,658	106,192	
救助科（第17期）	26	20	18,460	24,550	10,433	53,443	
幹部							
中級幹部科（第18期）	9	7	7,818	8,040	3,493	19,351	
特別教育							
防火管理指導員研修（第7期）	5	5	570	5,860	2,608	9,038	
新任救急隊員（救命士）研修（第2期）	12	10	29,851	12,090	5,216	47,157	
救急救命士処置拡大研修（第2期、第3期）（2回実施）	5	5	18,329	5,860	2,608	26,797	
基礎教育（第30期）	3	3	586	3,160	1,459	5,205	
専科							
警防科（第19期）	3	3	586	3,160	1,459	5,205	
幹部							
初級幹部科（第2期）	3	3	452	3,160	1,459	5,071	
指揮幹部科（第2期）	3	3	452	3,160	2,259	5,871	
教特育別							
現地教育（移動消防学校）			-	-	-	-	
その他							
女性防火クラブ研修（第21期）	2	2	3,010	1,810	2,054	6,874	
自衛消防隊研修（第32期、第33期）（2回実施）	1 (2)	1 (2)	3,930	460	613	5,003	

平成28年度 教育訓練日程表

平成28年 4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	入校式 初任教育 実日数116日 時間数812時間 昭和の日																													

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	実務研修 憲法記念日 みどりの日 こどもの日 実務研修 初任教育 実日数116日 時間数812時間																														

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
	慰霊の日 初任教育 実日数116日 時間数812時間																													

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	海の日 消防団基礎教育 実日数3日 21時間 初任教育 実日数116日 時間数812時間 7/25~7/29 所属実務研修																														

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	山の日 初任教育 実日数116日 時間数812時間																														

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	敬老の日 秋分の日 卒業式 初任教育 実日数116日 時間数812時間																													

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月						
	体育の日									中級幹部科 実日数7日 時間数49時間																											
救急科 実日数38日 時間数266時間																																					

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	文化の日			消防団指揮幹部科 実日数3日 21時間													危険物科 実日数5日 時間数35時間					勤労感謝の日				消防団初級幹部科 実日数3日 21時間				
実務研修 実務研修 救急科 実日数38日 時間数266時間																														

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	団初級幹部 特殊災害科 実日数8日 時間数56時間																						天皇誕生日								
救急科 実日数38日 時間数266時間																															

平成29年 1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	元日 振替休日									成人の日	予防査察科 実日数10日 時間数70時間																		救命士処置拡大		
消防団警防科 実日数3日 21時間																															

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	救命士処置拡大研修 実日数5日 時間数35時間×2回										建国記念日	新任救急隊員(救命士)研修 実日数10日 時間数70時間																
救助科 実日数20日 時間数140時間																												

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	新任救急隊員(救命士)研修 実日数10日 時間数70時間										防火管理指導員研修 実日数5日 35時間					春分の日	女性防火クラブ研修 実日数2日 14時間														
救助科 実日数20日 時間数140時間										自衛消防隊研修 1日×2回																					

教育内容及び時間数

1 消防職員に対する教育

(1) 初任教育

自 平成28年4月11日(月)
至 平成28年9月30日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
倫理	現代社会と消防	消防の本質と消防職員の任務	3	学校職員
	地域社会と消防	自治体消防の沿革と基本		
	消防職員の使命	消防の社会的使命と責任 公務員倫理	3	
法学基礎 ・ 消防法	消防行政と法	法治主義の原則、法の統一的運用と解釈	8	外来講師
	法の分類	法の存在形式、成文法の形式的・実質的分類		
	法の効力と適用	法の効力範囲、法の適用と解釈		
	法律関係	権利の種類と行使、義務の種類と履行		
	行政法	体系、行為、手続き、行政強制と行政罰	10	学校職員
	法の体系	消防関係法令の体系		
	消防法の目的	目的と用語の定義		
	主要規定の概要	火災予防、危険物、消防用設備、火災警戒、消火活動、火災調査及び救急業務の各規定、雑則及び罰則	2	
	効果測定	法学基礎(1)、消防法(1)		
消防組織制度	地方自治制度	地方自治の意義、法体系、条例と規則	10	学校職員
	自治体消防制度	消防制度の沿革、消防の任務と法体系		
	消防の組織	国、県、市町村の組織、消防責任、消防財政 他機関との関係、緊急消防援助隊制度		
	効果測定			
サービスと勤務	地方公務員制度	地方公務員制度の基本理念、権利、義務責任	6	外来講師
	消防実務	消防の組織、勤務形態と業務内容	2	消防職員
	消防職員の勤務条件	給与制度、勤務時間、休日及び休暇等、公務災害補償制度、安全衛生、消防職員委員会制度	15	学校職員
	文書事務	文書の機能、種類、決裁、公文書作成		
	情報公開と個人情報保護	情報公開制度、個人情報保護制度		
	接遇	接遇の基礎、電話や来訪者への対応、災害現場における接遇		
	事故防止	交通安全、社会生活上の問題対応		
	人権啓発	差別の実態と歴史、最近の人権問題	4	消防職員
	消防英語	消防関係用語、災害対応会話		
	効果測定	地方公務員制度(1)	1	学校職員
理化学	物	力と運動、個体の性質、液体と気体の性質、物体の熱的性質、熱の伝わり方	2	外来講師
	電気	電気の基礎知識	2	
	化学	化学の基礎、化学変化の概要、実験	5	
	燃焼と消火	燃焼の基礎知識、消火理論と消火剤、実験	1	学校職員
効果測定				
予防広報	防火管理	防火管理の意義、防火・防災管理制度、統括防火・防災管理制度	10	学校職員
	消防広報	消防広報の概念、広報・公聴活動 災害現場広報、消防広報と人権	5	
	自主防災	自主防災組織の活動、防災指導実施要領	4	
	効果測定	防火管理	1	

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
危険物	消防法上の危険物	危険物の範囲、特性、各類危険物の概要	8	学校職員
	危険物施設	規制の概要、設置・変更の許可、保守管理		
	指定可燃物等	指定可燃物、消防活動阻害物質、少量危険物		
	効果測定			
消防用設備	消防用設備の規制概要	消防用設備の種類、防火対象物、設置単位	12	学校職員
	消防用設備の基準概要	消火・警報・避難設備、消火活動上必要な施設		
	着工届及び検査等	検定制度、消防設備士、定期点検報告制度		
	効果測定			
査察	総則	査察の概念と法的根拠、査察執行上の留意事項	27	学校職員
	査察要領	査察上の特異性、着眼点、立入検査マニュアル		
	違反処理	査察結果の処理、違反処理マニュアル		
	査察実習	模擬査察、防火対象物見学		
効果測定				
建築	建築構造・法令・規制	建築構造の分類、建築基準法の体系と構成、確認申請と消防同意、構造制限と防火区画	9	県職員
	効果測定		1	
安全管理	安全管理、精神衛生	意義、活動別安全管理、メンタルヘルス	16	学校職員
	効果測定			
特殊災害と保安	特殊災害概論	概要、活動の原則	2	県職員
	放射線とアイソトープ	放射線、放射性同位元素、放射線の危険性	2	
	毒劇物	毒劇物の種類・危険性	2	
	火薬類	概要、主な火薬類	2	外来講師
	高圧ガス	概要、主な高圧ガス	2	
火災防ぎよ	火災防ぎよの概要	消火の原則、消防戦術、警防計画、装備の活用、部隊運用	30	学校職員
	火災防ぎよ行動	出動準備、覚知と出動、現場到着と水利部署、ホース延長、筒先配備、注水要領、破壊要領、進入要領、救出要領、水損防止、飛び火警戒、残火処理等		
	建物火災防ぎよ	建物構造別、建物態様別、地域態様別の火災		
	建物以外の火災防ぎよ	車両、船舶、航空機、その他火災		
	効果測定			
火災調査	火災調査概要	火災調査の目的、責任及び権限	15	学校職員
	火災調査実務	原因調査、損害調査、火災調査書類		
	効果測定			
防災	気象と災害	気象の基礎知識、注意報と警報、台風	8	国職員
	災害対策	災害対策基本法、防災組織と責任、防災計画	7	学校職員
	水災防ぎよ	水防責任、水防工法、防災訓練、台風対策	7	
	効果測定		1	
救急	人体知識	骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系	50	学校職員
	救急実務	救急業務の沿革、意義、体制、責務、関係法令		
	救急実技	応急処置法、傷病別応急処置		
	効果測定	学科、実科		
消防機械ポンプ	消防用自動車等	緊急自動車の定義と要件、交通事故防止対策 消防用自動車等の分類と用途、通信運用	6	学校職員
	消防ポンプ	ポンプ、水力学、ポンプ運用	8	
	効果測定		1	

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
訓練礼式	点検、礼式、訓練	通常点検、敬礼・申告、各個訓練、小隊訓練	50		
	効果測定	学科、実技			
消防活動訓練	訓練の概要	訓練の目的と安全管理	68	学校職員	
	ポンプ操法	集合、乗車、下車、吸管操作、ホース延長、筒先配備、内部進入、放水要領、撤収要領			
	検索及び救出	検索の基本、検索要領、救出及び搬送要領			
	警戒及び広報	警戒区域設定要領、現場広報要領			
	効果測定	学科、実科			
	ポンプ自動車・小型動力ポンプ運用実習	所属消防署にてポンプ自動車・小型動力ポンプの運用要領	14	所属消防職員	
救助訓練	概要	救助の意義、救助活動、安全管理	45		
	ロープ取扱技術	小綱、ロープ、カラビナの諸元・性能、ロープの巻き方、携行要領、各種結索法、懸垂線及びブリッジ設定要領			
	行動基礎	降下法、登はん法、渡過法、確保要領			
	効果測定	学科、実科			
機器取扱訓練	各種資器材の諸元・性能・取扱及び点検要領	吸水・放水器具、はしご、とび口、空気呼吸器、ガス測定器、投光器、エンジンカッター、空気鋸、可搬式クレーン、空気式救助マット、防水シート、その他	55	学校職員	
	効果測定	学科			
消防活動応用訓練	消火活動訓練	情報収集、ホース延長、筒先配備、内部進入、注水、水損防止、現場広報の各要領	85		
	救助活動訓練	かかえ救出、応急はしご救出、1カ所吊り救出、はしご水平救出、濃煙内検索救助			
	火災総合訓練	木造・防火造建物火災、耐火造建物火災、林野火災、車両火災、その他			
	救急救助総合訓練	建物倒壊救出、土砂埋没救出、交通事故挟まれ・下敷き救出、集団救急事故救出、その他〔野外訓練、耐久訓練、救助技術指導会等〕			
体育	体育理論と実技	健康と体力、体力づくり、運動の生理、トレーニング計画、筋力・持久力・調整力及び柔軟性トレーニング要領	45	学校職員(41H) 外来講師(4H)	
	障害の予防等 疲労回復	スポーツマナー、アイソング、テーピング(4H)			
	効果確認	消防体育会(7H)、体力向上記録会(7H)、耐久走(7H)、体力測定(4H×2回)			
	基本泳法	クロール・平泳、潜水、水難救助の基礎、着衣泳	10	外来講師(6H) 学校職員(4H)	
実務研修	消防署勤務実習	当直勤務(2回)、毎日勤務(1回)	35	所属消防職員	
選択研修	社会教育	税入門	1	国職員	
		ハブ対策	3	県職員	
		海洋危険生物	2		
	資格取得教育	無線通信(委託講習)	7	外来講師	
水難救助(委託講習)	28				
行事その他	式典	入校式、卒業式	2	学校職員	
	実科査閲	消防活動総合訓練(卒業展示訓練)	2		
	施設見学	県外消防施設設備等視察	21		
	講話	業務講話		2	消防長
		社会講話		1	消防協会長
			1	県職員	
	その他の行事等	オリエントेशन(11H)、環境整備(14H)	25	学校職員	
合計			812		

(2) 専科教育

① 特殊災害科

自 平成28年12月 7日 (水)

至 平成28年12月16日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
講 話		職責と心構え、消防活動の現状	1	学校職員	
特殊災害の概論		特殊災害の意義と特性 特殊災害に対する消防活動の考え方	2		
危険性物質等の概要	危険性物質等の基礎知識と関係法令	危険物、危険物施設	2	外来講師	
		高圧ガス	2		
		火薬類	2		
		毒・劇物	2	県職員	
		放射性物質	6		外来講師
		生物剤、化学剤			
		化学物質安全性データシートとイエロカード			
		テロ災害の特性			
消防活動と安全管理	危険性物質災害及び特殊空間・環境における活動要領と安全管理	積載資器材活用訓練	25	学校職員 消防職員	
		配管等の応急措置訓練			
		危険区域の設定要領			
		要救助者救出・多数傷病者訓練			
		他部隊との連携訓練及び化学災害総合訓練			
		活動時における安全管理	2		
		惨事における心理状況			
図上訓練	訓練手法	訓練の目的と実施要領	4	学校職員	
	部隊運用要領	化学災害想定指揮訓練			
消防体育	体力測定	身体能力等の測定	2		
訓練礼式	点検・礼式	点呼、点検及び申告要領	1		
効果測定	検 証	化学災害総合訓練、検討会	2		
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション	3		
合 計			56		

② 予防査察科

自 平成29年1月16日(月)

至 平成29年1月27日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
予防査察行政の 現 状 と 課 題		予防査察行政の現状と課題	3	消防職員
		消防関係法令の改正内容		
消 防 同 意	消 防 同 意 の 概 要	建築行政と消防行政との関係	3	消防職員 学校職員
		消防同意制度		
		防火に関する建築規制		
		消防同意の要領と留意事項		
査 察	査 察 要 領	防火管理と査察要領(7H)	15	
		警報設備<令21~24>(4H)		
		消火設備1<令10~12,19,20>(4H)		
査 察	査 察 要 領	消火設備2<令13~18>(4H)	20	消防職員
		設備規制の概要(4H)		
		避難設備等<令25~29の3>(4H)		
		火災予防条例<1章~3章>(4H)		
		少量危険物<4章~7章>(4H)		
危 険 物 規 制	製 造 所 等 に 対 す る 規 制 と 査 察 要 領	製造所等の保安管理に関する査察着眼点	2	消防職員
		製造所等の位置・構造・設備に関する 査察着眼点		
		製造所等の貯蔵・取扱いに関する査察着眼点		
		危険物施設ごとの査察着眼点		
違 反 処 理	違 反 処 理 の 概 要 違 反 処 理 の 手 続 違 反 処 理 要 領 危 険 物 取 扱 者 及 び 消 防 設 備 士 に 対 す る 行 政 措 置 不 服 審 査 手 続	違反処理の意義、必要性及び行政指導	6	学校職員 消防職員
		警告、命令、許可の取消し等、告発、代執行		
		違反処理の際の基本的留意事項		
		違反処理マニュアル		
		危険物取扱者免状及び消防設備士免状の 返納命令に関する運用基準		
査 察 実 習	防 火 対 象 物	防火対象物の査察	7	消防職員
		建築・設備図書の見方		
事 例 研 究	実 務 研 究 課 題 討 議	違反処理事例	5	学校職員
		査察事例		
		消防用設備設置指導事例		
		災害事例		
消 防 体 育	体 力 測 定	身体能力等の測定	2	
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	点呼、点検及び申告要領	2	
効 果 測 定			1	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			70	

③ 危険物科

自 平成28年11月14日（月）

至 平成28年11月18日（金）

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
危険物行政の 現状と課題		危険物行政の現状と課題	2	学校職員
		消防関係法令の改正内容		
危険物化学	各危険物の概要	指定可燃物の貯蔵・取扱	6	外来講師
		消防活動阻害物質の貯蔵・取扱		
		危険物実験		
危険物規制	危険物規制の 概要及び許認可	危険物規制の概要・設置・変更	4	消防職員
		危険物施設の保守管理、保安制度		
		許認可の手続、書類審査、設備図面の見方		
危険物規制	危険物施設①	地下タンク貯蔵所・給油・販売・ 移送取扱所の基準	5	消防職員
	危険物施設②	危険物施設①以外の製造所等・消火設備	5	
	違反処理	危険物施設に対する措置命令	3	
事例研究	実務研究課題討議	危険物規制事務事例	4	学校職員
		違反処理事例		
		災害事例		
消防体育	体力測定	身体能力等の測定	2	
訓練礼式	点検・礼式	点呼、点検及び申告要領	1	
効果測定			1	学校職員
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション	2	
合 計			35	

④ 救急科

自 平成28年10月12日 (水)
至 平成28年12月 6日 (火)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
救急業務及び救急医学の基礎	救急業務の総論及び医学概論	救急業務の沿革及び意義、救急隊員の責務等	4	学校職員	
		救急医療の現状	2	県職員	
		救急医療、救急ヘリ、MC体制	4	医師	
		医学概論	2		
	解剖・生理	総論及び身体各部の名称、皮膚系、筋骨格系、呼吸系、循環系、泌尿系、消化系、神経系、感覚系、内分泌系、生殖系、その他の系	3	消防職員 学校職員	
			28		
	社会保障・社会福祉	社会保障の概念、社会保障及び社会福祉の関係法規、社会福祉体制、医療保険	6	医師	
救急実務及び関係法規	救急業務の関係機関、救急業務の関係法規	6	学校職員		
	死亡事故の取扱い、救急活動の通信システム及びその運用、救急活動の基礎的事項、救急活動の記録	2	学校職員		
応急処置の総論	観察 I	血圧、脈拍、循環の観察	2	消防職員	
	観察 II	呼吸の観察、体温、その他	1		
	観察 III	全身・局所所見の把握、障害の受傷機転、既往症等の聴取	2	医師	
			2	学校職員	
	検査	一般検査、生理学的検査、検査機器の原理と構造、保守管理	3	医師	
	応急処置総論	救命の鎖、ドクターカー、ロード&ゴー、応急処置に際しての留意点	3		
	応急処置各論	気道確保、異物除去、人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、酸素吸入、直接圧迫及び間接圧迫による止血、被覆、副子固定、在宅療法継続中の傷病者搬送時における処置の維持、保温、体位管理	16	医師 学校職員	
			女性傷病者に対する接遇、観察、処置	2	消防職員
			各種搬送、救出、車内看護	26	学校職員
	多数傷病者事故災害対応	プレホスピタルケア、救急医療体制、集団災害、トリアージタグ記載要領	11	医師、看護師 消防職員	
		多数傷病者発生事故の対応			
救急資器材	観察用資器材、呼吸循環管理用資器材、創傷等保護用資器材、消毒用資器材、その他の応急処置用資器材、搬送・保温用資器材、救出等に必要資器材	4	消防職員		
感染防止と消毒	感染防止、消毒	2	医師		

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
病態別 応急処置	心 肺 停 止	原因、病態生理、病態の把握、応急処置、病態の評価	4	医 師	
	ショック・循環不全	〃	3		
		〃	2	消防職員	
	意 識 障 害	〃	3	医 師	
		〃	2	消防職員	
	咯血・吐血・下血	〃	3	医 師	
		〃	1	消防職員	
	一 般 外 傷 (頭部外傷、頸椎損傷含)	〃	4	医 師	
		〃	4	消防職員	
	熱 傷 ・ 電 撃 傷	〃	3		
	中 毒	〃	3		
	溺 水	〃	3		
異物(食道・消化器)	〃	2			
特殊病態別 応急処置	小 児 ・ 新 生 児	小児及び新生児の基礎的事項、症状からみた小児救急疾患の重傷度判定、小児の事故、心肺蘇生法	6	医 師	
	高 齢 者	高齢者の基礎的事項、ショック、保温、意識障害、頭痛、胸痛、呼吸困難、その他の疾患	3		
	産 婦 人 科 ・ 周 産 期	産婦人科及び周産期の基礎的事項、救急と関連する婦人科疾患、分娩の介助、分娩直後の新生児の管理	5		
	精 神 障 害	精神科救急の基礎的事項、精神科救急への対応、病態の評価、精神科の治療	3		
	そ の 他 の 創 傷 等 の 処 置	切断四肢の取扱い、多発外傷、鼻出血、眼損傷、口腔損傷、日(熱)射病、寒冷損傷、爆傷、酸欠、急性放射線障害、動物による咬傷、刺傷	4		
		海洋性有害生物による咬刺傷、減圧症	4		
実 習	シミュレーション実習①	傷病別応急処置実習、想定付与による応急処置実習、医療機関との連携等	25	医 師 消防職員	
	シミュレーション実習②	JPTEC総論、外傷観察、処置、救出固定・装着等 (JPTECプロバイダーコース)	8	医 師 消防職員	
	病 院 実 習	応急処置等実習	2	医 師	
	実 務 研 修	救急車同乗実習	14	消防職員	
効 果 測 定	入 校 時 テ ス ト	救急知識、応急処置等技術	4	学 校 職 員	
	中 間 テ ス ト		1		
	学 科 考 査、実 技 考 査		7		
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	点呼、点検及び申告要領	2		
消 防 体 育	体 力 測 定	身体能力等の測定	3		
行 事 そ の 他		入校式、修了式、リエンション、環境整理	7		
合 計			266		

⑤ 救助科

自 平成29年2月13日（月）

至 平成29年3月10日（金）

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講	話	職責と心構え	1	学校職員
倫	理	救助隊員の心構え	1	
訓	練 礼 式	点 検 通常点検、点呼要領、救助隊点検	2	
安 全 管 理	救 助 活 動 に お け る 安 全 管 理	訓練時、現場活動時の安全管理体制	4	学校職員
		訓練実施者の配置位置		
		事例研究	3	
		交通事故対策	3	県警職員
		メンタルヘルス対策	2	医師
予 防	消 防 用 設 備	救助隊に必要な消防用設備の概要	2	学校職員
現 場 指 揮	災 害 現 場 の 指 揮	現場指揮者の心構えと任務	2	
災 害 救 助 対 策	救 助 対 策 と 活 動 事 例	救助業務関係法令	2	消防職員
		震災対策 狭隘及び瓦礫救助	2	
		ガス事故対策と事例	2	外来講師
		爆発物事故対策と事例	2	
		電気事故対策と事例	2	
		毒劇物事故対策と事例	2	
		エレベーター事故対策と事例	3	
		シャッター事故対策と事例	2	
		ハイブリッド自動車事故対策	2	
		火災救助対策と事例	2	消防職員
		交通事故救助対策と事例	2	
		倒壊建物救助対策と事例	2	
		機械挟まれ救助対策と事例	2	
		水難事故、自然災害救助対策と事例	2	
		NBC災害対策と事例	3	
救 急	外 傷 処 置	全身観察、処置、全脊柱固定要領	4	学校職員
		多数傷病者発生時の処置		

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
実科訓練	活動基礎	座席・身体懸垂降下、救助工作車資機材取扱	3	学校職員
	資機材取扱	重量物排除、破壊、切断用救助資機材取扱	4	消防職員
		高度救助資機材取扱	4	
	高所救助	梯子水平救助1法、2法	4	
		斜めブリッジ救助	4	
		宙吊り救助、柱上救助	4	
	低所救助	応急梯子救助、積載梯子取扱訓練	4	
		梯子クレーン救助1法、2法	4	
	火災現場対策	立て坑救助、横坑救助	4	消防職員
		濃煙検索救助、注水及び進入要領	4	
	震災対応訓練	実火災訓練（ホットトレーニング）	4	
		狭隘空間活動訓練（CSR）	4	
	交通事故対策	USAR（ロープレスキュー・リフティング・ムービング）	4	
衝突、下敷き、横転事故対応訓練		4		
総合訓練	他部隊との連携訓練	梯子車活用訓練	3	
	想定訓練	応用訓練	7	
		学生企画訓練	7	
消防体育	体育理論	メンタルトレーニング、ストレッチ等	1	学校職員
	体力測定	身体能力等の測定	2	
効果測定	学科考査	救助理論効果測定	1	
	実科考査	救助実技効果測定	4	
その他	行事	入校式、修了式、オリエンテーション、資機材整備	4	
合計			140	

(3) 幹部教育

中級幹部科

自 平成28年10月19日(水)
至 平成28年10月27日(木)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		中級幹部としての職責と心構え	1	学校職員
訓 練 礼 式	点 検	通常点検等の実施要領、指導要領	2	
	礼 式	物品授受等の指導要領		
消 防 時 事	消 防 行 政	消防行政の現状と課題	2	学校職員
	消 防 法 令	消防関係法令の改正内容	2	
消 防 財 政	財 政 の し く み	地方財政と消防財政の仕組み	2	県職員
	消 防 財 政	消防財政の現状と課題		
人 事 業 務 管 理	組 織 と 監 督	組織の活用と監督の概念	3	外来講師
		上司・同僚・部下との関係		
	人 権	自助、共助、公助参画社会	2	学校職員
		災害心理、惨事ストレス対策		
	情 報 公 開 と 個 人 情 報 保 護	情報公開制度	2	消防職員
		個人情報保護制度		
健 康 管 理 指 導 等	マッサージとテーピング	2	外来講師	
	メンタルヘルス	2	医師	
安 全 管 理	安 全 対 策	安全管理、危機管理体制の確立	4	学校職員
		安全管理要領、事故発生時の措置要領		
現 場 指 揮	災 害 現 場 の 指 揮	現場指揮者の心構えと任務	8	学校職員
		現場指揮本部の重要性と効果		
		災害現場広報要領		
	現 場 指 揮 と 安 全 管 理	火災防ぎょ指揮要領と留意点		
事 例 研 究	実 務 研 究 課 題 討 議	法制通論関係	3	外来講師
		消防実務関係	8	学校職員
		災害事例		
消 防 体 育	体 育 指 導	トレーニング推進、障害予防、疲労回復等	3	学校職員
	体 力 測 定	身体能力等の把握		
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			49	

(4) 特別教育

① 防火管理指導員研修

自 平成29年3月13日(月)
至 平成29年3月17日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓練礼式	点検	点検要領、点呼要領	2	学校職員
防火管理者制	防火管理者制度	職場における自衛消防隊とその訓練の進め方	4	
	自衛消防訓練	自衛消防指導要領	5	
自衛消防指 導実 防 習	訓練礼式	各個訓練	2	
	消火・避難訓練	消火器、避難器具、屋内消火栓操法等	6	
	総合訓練	通報・消火・避難誘導訓練等	6	
効果確認		各種訓練ごとの討議	6	
行事その他		入校式、修了式、リエンション、環境整理	4	
合 計			35	

② 新任救急隊員(救命士)研修 処置拡大の内容も含む

自 平成29年2月20日(月)
至 平成29年3月 3日(金)

座 学				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
気管挿管に必要な構造と機能	気管挿管に必要な呼吸器の構造と機能	気道の構造と呼吸の生理 声門運動と発声、血液ガスと肺循環	2	医 師
	気管挿管後の人工呼吸管理	気管挿管後の換気・酸素化障害の原因疾患		
気管挿管法の実 際	気管挿管法と各種気道確保法	気管挿管の準備と実際 各種気道確保法の特徴、利点、欠点	2	
	気管挿管後の気道吸引	気管挿管法の実際と挿管後の気管吸引法		
	気管挿管後の視・聴診的確認法と誤挿管の判断	気管挿管後の聴診法、直視下再確認、EDD、CO2検出法等の実際		
	気管挿管困難症	小顎症、頭部後屈困難などの気管挿管困難症の対応		
	気管挿管による合併症とその対策	気管挿管に伴う合併症(骨軟部組織の損傷など)		
	医療機関で行われる気管挿管と救急救命士による気管挿管	医療機関における気管挿管の方法や目的、適応と禁忌		
気管挿管に関するリスクマネジメント	気管挿管に伴う危険因子	気管挿管に伴う危険因子	1	
	誤挿管時の対応	誤挿管時の対応		
	気管挿管合併症発生時の対応	気管挿管合併症発生時の対応		
薬剤投与に必要な構造と機能	薬剤投与に必要な循環器系の構造と機能	心臓の構造と機能 脈管系の構造と機能	1	
	循環の制御	自律神経系や内分泌系その他による循環制御機構		
	体液・電解質・酸塩基平衡	体液・電解質・酸塩基平衡の基本と異常		
心肺停止前後の病態	心肺停止に至る病態	循環・呼吸不全、気道閉塞による心肺停止	2	
	心肺停止蘇生後の病態	心肺停止蘇生後にみられる種々の病態		
気管挿管、薬剤投与が適応となる心停止の病態	心室細動/無脈性心室頻拍	心室細動/無脈性心室頻拍の原因となる病態	1	
	無脈性電氣的活動/心静止	無脈性電氣的活動の原因となる病態		

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
薬剤投与の基礎	薬物の作用	薬物の作用、機序用量・反応、関係薬物の剤型とその特徴	2	医師
	薬物の吸収、代謝、排泄	薬物動態・薬力学の基本 薬物の吸収・代謝・排泄の基本 高齢者・妊婦・小児における薬物動態		
	薬剤の投与経路と投与方法	薬剤の投与経路と投与方法		
	薬物の有害作用	薬物の主作用と副作用、薬物アレルギー		
	薬剤投与の原則	薬剤投与の原則		
	自律神経系薬	交感神経作動薬/遮断薬 副交感神経作動薬/遮断薬		
	心肺停止に用いられる代表的な薬剤	エピネフリン、リドカイン、アトロピン、マグネシウム製剤、炭酸水素ナトリウム等		
薬剤投与の実際	静脈路確保と薬剤投与に必要な器具	静脈路確保と薬剤投与に必要な器具	2	学校職員
	静脈路確保とその確認	静脈路確保法と確認法		
	薬効評価と観察	心肺停止におけるエピネフリン投与後の薬効評価と観察		
	薬剤投与後の合併症と対策	心肺停止におけるエピネフリン投与の合併症とその対策		
	器材の廃棄	器材の廃棄		
気管挿管、薬剤投与のプロトコール	気管挿管、薬剤投与の適応	気管挿管、薬剤投与の適応となる病態	1	学校職員
	気管挿管のプロトコール	気管挿管のプロトコール		
	薬剤投与のプロトコール	薬剤投与のプロトコール		
	心室細動/無脈性心室頻拍のプロトコール	心室細動/無脈性心室頻拍のプロトコール 事例呈示によるプロトコール内容の理解		
	無脈性電気活動、心静止のプロトコール	無脈性電気活動、心静止のプロトコール 事例呈示によるプロトコール内容の理解		
	病院で行われる二次救命処置	心室細動/無脈性心室頻拍 無脈性電氣的活動、心静止		
気管挿管、薬剤投与とメディカルコントロール	気管挿管、薬剤投与に関するメディカルコントロール体制	気管挿管、薬剤投与におけるメディカルコントロール体制の意義	1	医師
	気管挿管、薬剤投与における医師、救急救命士間の連携	メディカルコントロール体制下の気管挿管・薬剤投与と指示・連絡体制		
	傷病者情報の効率的な伝達	オンラインでの状況伝達と支持要請		
気管挿管、薬剤投与と生命倫理	気管挿管、薬剤投与に関わる生命倫理	気管挿管、薬剤投与に関わる生命倫理 救命処置の変遷と新たな処置拡大	1	医師
	気管挿管、薬剤投与の説明のあり方	気管挿管、薬剤投与の説明のあり方 傷病者への説明と同意の取得		

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
薬剤投与に関するリスクマネジメント	リスクマネジメント	病院での医療事故に対するリスクマネジメント	1	医師
	薬剤誤投与と対策	薬剤誤投与への対策		
	針刺し事故と対策	針刺し事故による感染症と発生時への対策		
	気管挿管、薬剤投与に関する医療訴訟	気管挿管、薬剤投与に関する国内外での医療訴訟		
	救急救命士における法的責任	救急救命士における法的責任		
糖尿病・低血糖の病態と治療	糖尿病の病態と治療（血糖降下法など）	生体におけるブドウ糖の役割と代謝	3	医師
	病態	低血糖・高血糖の病態と対応		
	ブドウ糖投与と合併症	ブドウ糖の投与と合併症		
	意識障害の疾患鑑別	意識障害をきたす疾患とその鑑別 血糖測定の前投与と合併症		
ショックの病態と治療	各ショックの病態と治療	ショック・クラッシュ症候群の病態と治療	4	医師
	原因別分類・鑑別と輸液効果	ショックの鑑別と輸液の効果		
	輸液と生体反応と合併症	生体に対する輸液とその合併症		
実習				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
気管挿管、薬剤投与に関する基本手技の実習	薬剤の保管・管理・取り扱いの実際	薬剤の保管・管理 薬剤の取り扱い	7	医師 消防職員 学校職員
	薬剤投与の準備	病院内を想定した薬剤投与の準備		
	人形を用いた気管挿管・薬剤投与のトレーニング	病院内を想定した薬剤投与の実施 院外心肺停止事例を想定した気管挿管・薬剤投与の実施		
シミュレーション等による気管挿管、薬剤投与実習	気管挿管・薬剤投与プロトコルの実施	連携を想定した気管挿管・薬剤投与の基本プロトコル実習	12	医師 消防職員 学校職員
	使用後の薬剤や注射器の取り扱いと安全管理	使用後の薬剤や注射器の取り扱いと安全管理		
血糖測定に関する基本	測定器の取り扱い	機器取り扱いの実際	1	消防職員
	血糖測定の手技	血糖測定の手技の実際		
静脈路確保と輸液に関する基本手技	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の手技	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実際	2	学校職員
		ブドウ糖溶液の投与の実際		
		静脈路確保と輸液でのトラブルに対する対応		
血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖投与（シナリオ訓練）	血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖投与	意識障害鑑別、血糖測定判断、プロトコルの実施	6	医師 消防職員
心肺機能停止前の静脈路確保と輸液（シナリオ訓練）	ショックの判断、病態鑑別プロトコルの実際	ショックの病態鑑別と輸液等のプロトコルの実施	6	
効果測定	学科考査、実技考査	入校時プレテスト 気管挿管・薬剤投与の基本手技の実技試験 OSCEによるプロトコル実技試験	4	医師 消防職員 学校職員
訓練礼式	点検	点検要領、点呼要領	2	学校職員
行事その他		入校式、修了式、リエンション、環境整理	6	
合計			70	

③ 救急救命士処置拡大研修

第1回 自 平成29年1月30日(月)
至 平成29年2月 3日(金)
第2回 自 平成29年2月 6日(月)
至 平成29年2月10日(金)

座 学				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
救急救命処置の変遷	変遷	救急救命処置の変遷と新たな処置拡大	1	医 師
病院前医療における医療倫理	医 療 倫 理	傷病者への説明と同意の取得		
糖尿病・低血糖の病態と治療	糖尿病の病態と治療(血糖降下法など)	生体におけるブドウ糖の役割と代謝	3	
	病 態	低血糖・高血糖の病態と対応		
	ブドウ糖投与と合併症	ブドウ糖の投与と合併症		
	意識障害の疾患鑑別	意識障害をきたす疾患とその鑑別 血糖測定の前投与と合併症		
ショックの病態と治療	各ショックの病態と治療	ショック・クラッシュ症候群の病態と治療	4	医 師 消防職員
	原因別分類・鑑別と輸液効果	ショックの鑑別と輸液の効果		
	輸液と生体反応と合併症	生体に対する輸液とその合併症		
バイタルコントロールと救急救命処置	傷病者情報の効率的な伝達	オンラインでの状況伝達と支持要請	1	医 師
効果確認	教育内容習得状況確認	筆記試験	2	学校職員
実 習				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
血糖測定に関する基本	測定器の取り扱い	機器取り扱いの実際	1	消防職員
	血糖測定の手技	血糖測定の手技の実際		
静脈路確保と輸液に関する基本手技	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の手技	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実際	1	学校職員
		ブドウ糖溶液の投与の実際		
		静脈路確保と輸液でのトラブルに対する対応		
血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖投与(シナリオ訓練)	血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖投与	意識障害鑑別、血糖測定判断、プロトコルの実施	6	医 師 消防職員
心肺機能停止前の静脈路確保と輸液(シナリオ訓練)	ショックの判断、病態鑑別プロトコルの実際	ショックの病態鑑別と輸液等のプロトコルの実施	6	
効果確認	テ ス ト	実技試験(入校時プレテスト2・終了テスト)	5	学校職員
訓練礼式	点 検	点検要領、点呼要領	1	
行事その他		入校式、修了式、リエンション、環境整理	4	
合 計			35	

2 消防団員に対する教育

(1) 基礎教育

自 平成28年7月27日(水)
至 平成28年7月29日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
訓 練 礼 式	訓 練 ・ 礼 式	訓練礼式の目的、基本動作、点検	2	
組 織 制 度	消防団の概要・活動	沿革と組織、任免と階級、消防団業務	1	
ポ ン プ 操 法	放 水 訓 練	水利部署、ホース延長・結合・放水・収納	4	
	消防ポンプ操法の概要	概要、基本動作		
火 災 防 ぎ よ	通 論	火災の定義、消火理論と方法、防ぎよ戦術	2	
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法、地域防災計画の概要	2	
救 急 救 助	救 急 法	搬送法、心肺蘇生法	4	
	救 助 法	結索法、資器材取扱		
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	2	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			21	

(2) 専科教育(警防科)

自 平成29年1月18日(水)
至 平成29年1月20日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え、消防団員と地域総合防災力	1	学校職員
訓 練 礼 式	訓 練 ・ 礼 式	訓練礼式の目的、基本動作	3	
火 災 防 ぎ よ	通 論、防 ぎ よ 活 動	消火理論、水利部署、ポンプ運用、注水要領	10	
	想 定 訓 練	建物火災防ぎよ訓練		
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法と消防団の役割、図上訓練	2	
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	2	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			21	

(3) 幹部教育

① 初級幹部科

自 平成28年11月30日(水)
至 平成28年12月 2日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		幹部としての職責と心構え	1	消防協会長
訓 練 礼 式	指 導 要 領	訓練礼式の重要性、基本動作	4	学校職員
現 場 指 揮	現 場 指 揮 要 領	現場指揮の重要性と効果	7	
	想 定 訓 練	建物火災指揮訓練		
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法と消防団の役割	2	
	住 民 指 導 要 領	消火訓練、避難訓練、救出・救護訓練	4	
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	1	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	2	
合 計			21	

② 指揮幹部科

自 平成28年11月 9日(水)
至 平成28年11月11日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		幹部としての職責と心構え、組織制度	2	学校職員
訓 練 礼 式	指 導 要 領	訓練礼式の重要性、基本動作	3	
現 場 指 揮	現 場 指 揮 要 領	火災防ぎよ、水災活動、救助・救命、避難誘導、災害情報収集・伝達	9	
	想 定 訓 練			
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法と消防団の役割	1	
		災害対応図上訓練	2	
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	2	
行 事 其 他		入校式、修了式、オリエンテーション	2	
合 計			21	

(4) 特別教育

① 現地教育 (移動消防学校)

自 平成28年10月
至 平成29年 3月

主 な 教 科 目		教 育 内 容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式	訓 練 ・ 礼 式	各個訓練、敬礼動作、小隊訓練、通常点検要領	※	学校職員
組 織 制 度	消防団の概要・活動	沿革と組織、任免と階級、消防団業務		
ポ ン プ 操 法	放 水 訓 練	水利部署、ホース延長・結合・放水・収納		
	消防ポンプ操法の概要	概要、基本動作		
火 災 防 ぎ よ	通 論	火災の意義、消火理論と方法、防ぎよ戦術		
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法、地域防災計画の概要		
救 急 救 助	救 急 法 、 救 助 法	搬送法、心肺蘇生法、結索法、資器材取扱		

※ 教科目及び時間数は要請町村と調整

3 その他の教育 (消防防災関係者)

(1) 女性防火クラブ研修

自 平成29年3月22日(水)
至 平成29年3月23日(木)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式	訓 練	各個の訓練、部隊訓練	3	学校職員
ポ ン プ 操 法	軽可搬ホソソフ操法	基本動作	4	
消 火 訓 練	消 火 器 操 作 訓 練	消火器の取扱い	3	
救 急	応 急 手 当	心肺蘇生法、AED取り扱い	2	
行 事 其 他		入校式・修了式	2	
合 計			14	

(2) 自衛消防隊研修

第1回 平成29年3月15日(水)
第2回 平成29年3月16日(木)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式		各個訓練	1	学校職員
防 火 管 理 者 制 度		職場の防火管理のあり方	1	
消 火 ・ 避 難 訓 練		消火器、避難器具、屋内消火栓操法等	3	
総 合 訓 練		通報・消火・避難誘導訓練等	1	
行 事 ・ 其 他		入校式・修了式	1	
合 計			7	

付 録

- 関係書類作成要領
- 教育種別携行品一覧表
- 案 内 函
- 配 置 函

関係書類作成要領

1 入校申込み書類について

消防職員等を消防学校に入校させようとする場合は、沖縄県消防学校規則第6条の規定に基づき、入校申込書と本人の履歴書を提出してください。

2 入校申込書について

- (1) 申込み者は、消防職員及び女性防火クラブ員については消防長、消防団員については消防団長名となります。
- (2) 入校申込者が2名以上いる場合でも、申込書は1枚でもって作成すること。

※ 記入例

階 級	記 氏 名
消防士長	消 防 太 郎 <small>しやう ぼう た ろう</small>
消 防 士	消 防 次 郎 <small>しやう ぼう じ ろう</small>
消 防 士	消 防 三 郎 <small>しやう ぼう さぶ ろう</small>

3 履歴書の作成について

履歴書の作成にあつては、タイプ浄書又はペン（ボールペン可）書（黒）により、横書きとし、数字は算用数字を用い記入する。

- (1) 所 属 吏員にあつては出張所（分遣所）名まで、団員にあつては分団名まで記入する。
- (2) 氏 名 住民基本台帳による実名とし、ふりがなをつける。
- (3) 生年月日 入校日を基準とし、元号(昭和等)年月日を記入する。
- (4) 現 住 所 主たる住居とし、緊急連絡可能な電話番号を記入する。
- (5) 最終学歴 教育基本法に定める学校を記入する。
- (6) 階 級 入校日現在の階級を記入する。
- (7) 採用年月 消防吏員又は消防団員として採用された元号年月を記入する。
- (8) 消防経験年数 入校日を基準とし採用年月から起算し、1ヶ月未満は切り捨てる。
- (9) 消防学校等歴 消防学校又は消防大学校を修了もしくは卒業した者は、期別ごとに科(課程)名を記入すること。
- (10) 職 歴 入校日から起算して、直前の勤務歴（士長昇任、警防課、予防課、民間会社、官庁等の勤務歴）を記入欄の範囲で順をおって記入する。
- (11) 健康状況 有・無に○で表示し、既往症有の場合は、（ ）に病名等を記入する。
- (12) 喫煙の有無 有・無に○で表示する。
- (13) 特 技 趣味又は本人の最も得意とする技量等を記入する。
- (14) 資格・免許等 許可行政庁の発給する免許名、免許以外の資格名を記入する。
- そ の 他 作成にあつては、作成例を参考にして下さい。

第1号様式（第6条関係）

第 号
年 月 日

沖縄県消防学校長 殿

消防本部名
(消防団名)
消 防 長 名
(消防団長名)



入 校 申 込 書

下記の者を貴校における
させたいので、申込みます。

教育 科 課程に入校

記

階 級

ふ り が な
氏 名

履 歴 書

所属 消防本部（消防団）

ふりがな		生 年 月 日		性別	
氏 名		年 月 日 生		男・女	
現住所	〒				
最終学歴	昭和 平成	年 月	学校	学部 科	卒業 中退
階 級		採 用 年 月		消 防 経 験 年 数	
		昭和 平成	年 月	年 月	
消防学校歴	年 月		職 歴	年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
消防大学校歴	年 月			年 月	
	年 月			年 月	
健康状況	既往症 有（ ） 無			喫煙の有無 有 無	
特 技					
資 格 ・ 免 許 等					

第2号様式（第6条関係）

履 歴 書

所 属 南部町消防本部 北消防署中出張所

ふりがな	やま かわ いち ろう	生 年 月 日	性別
氏 名	山 川 一 郎	昭和30年 10月 25日 生	Ⓜ・女
現 住 所	南部町字北部123番地 中部マンション204号室 TEL 098-777-8888		
最終学歴	Ⓢ昭和 平成 53年 3月 国際沖縄大学	法経学部 商学科	Ⓢ卒業 中退
階 級	採 用 年 月	消 防 経 験 年 数	
消防司令補	Ⓢ昭和 平成 55年 4月	22年 3月	
消防学校歴	S56年 10月	第13期初任教育	職 歴
	S56年 11月	第11期救急科	
	S58年 4月	第12期警防科	
	S63年 4月	第3期初級幹部科	
	H7年 12月	第20期予防科	
	H10年 11月	第7期中級幹部科	
消防大学校歴	H13年 9月	第26期幹部研修科	S53年 4月 第1不動産株式会社
	年 月		S55年 4月 南部町消防吏員拝命、総務課付
健康状況	既往症	Ⓢ有 (H9年 胃潰瘍) 無	S56年 10月 署第1警備係
			S62年 4月 消防副士長
			H2年 4月 署第2警備係
			H6年 4月 消防士長、本部予防係主任
			H10年 4月 署第1警備分隊長
			H12年 4月 消防司令補、本部総務係長
特 技	空手、司会業、油絵、マラソン、古典音楽		
資 格 ・ 免 許 等	英検2級、手話通訳、玉掛け技能、古典音楽(太鼓)師範 ----- 大型二種自動車、救急救命士、特殊無線技士		

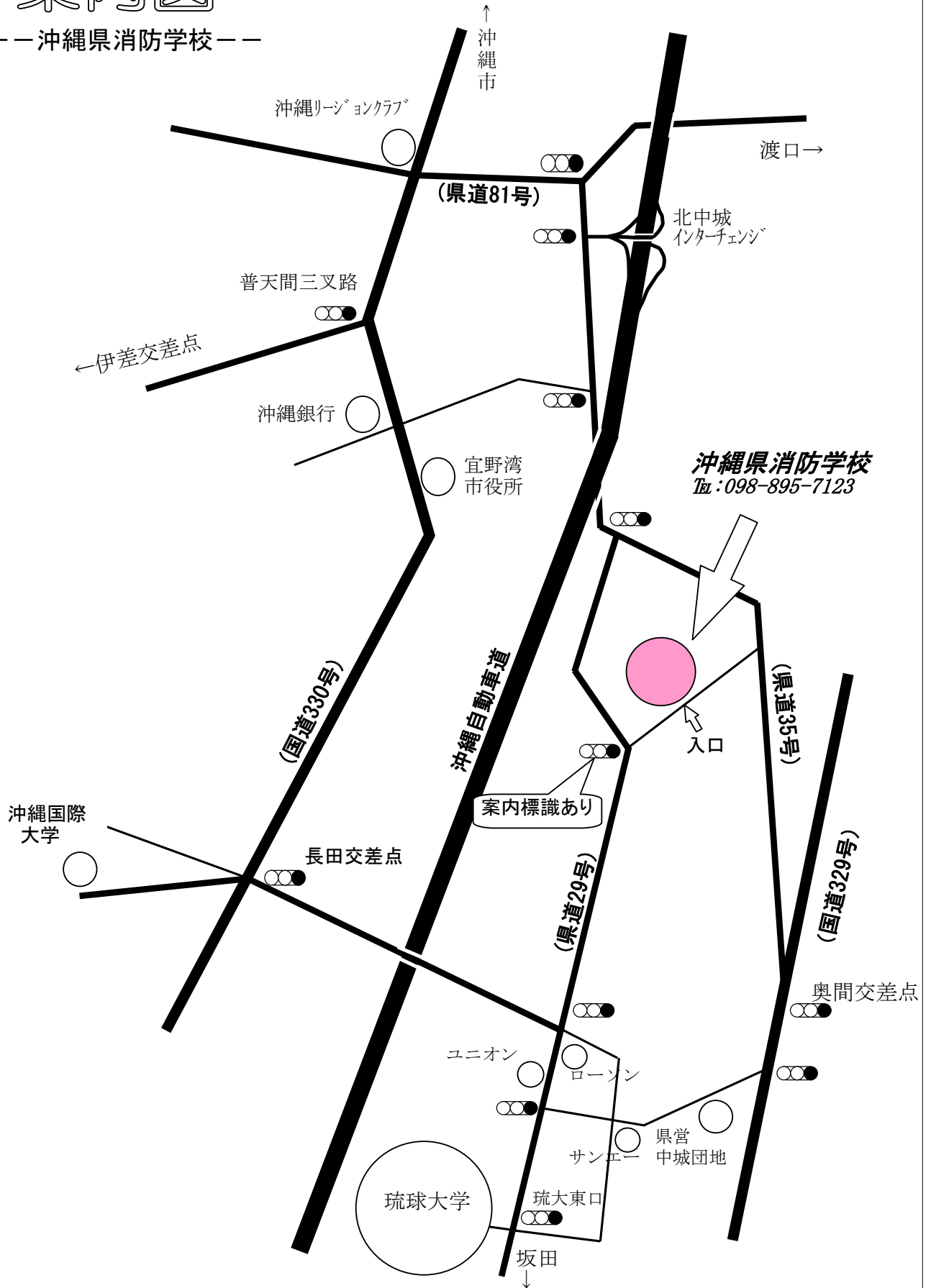
教育種別携行品一覧表

教育種別		制服 制帽	短靴	印鑑	健康 保険証	トレーニング ウェア	運動靴	体育館 シューズ	上履き	活動服 (作業服)	保安帽	アホ [®] 帽	洗面 用具	そ の 他	
															教育科別
消 防 職 員	初任教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	編上靴、防火衣一式、訓練用手袋 白手袋、水泳着(ラッシュガード)	
	専 科 教 育	警防科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救助手袋、編上靴、小綱、カビナ
		特殊災害科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		予防査察科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	電卓、立入検査証
		危険物科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		火災調査科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		救急科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、白衣
	幹 部	救助科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、救助服 救助手袋、編上靴、小綱、カビナ
		初級幹部科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	自治六法、救助手袋、編上靴
		中級幹部科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
	員 別	上級幹部科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		水難救助研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	潜水器具一式、予備ポンペ
		ポンプ操法指導員研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救助手袋、編上靴
		防火管理指導員研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救助手袋、編上靴
		新任救急隊員(救命士)研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、白衣
消 防 団 員	救急救命士処置拡大研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	救急・救助六法、白衣	
	基礎教育			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	編上靴、救助手袋	
	専 科	警防科			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
		幹部教育			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
	特 別	操法科			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	〃
現地教育										○	○	○		〃	
そ の 他	女性防火クラブ研修	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	制服の支給がない場合は平服	
	自衛消防隊研修			○	○					○					

※ 制服の着用期間について、4月から11月までの間は夏服(半袖)、12月から3月までの間は冬服です。

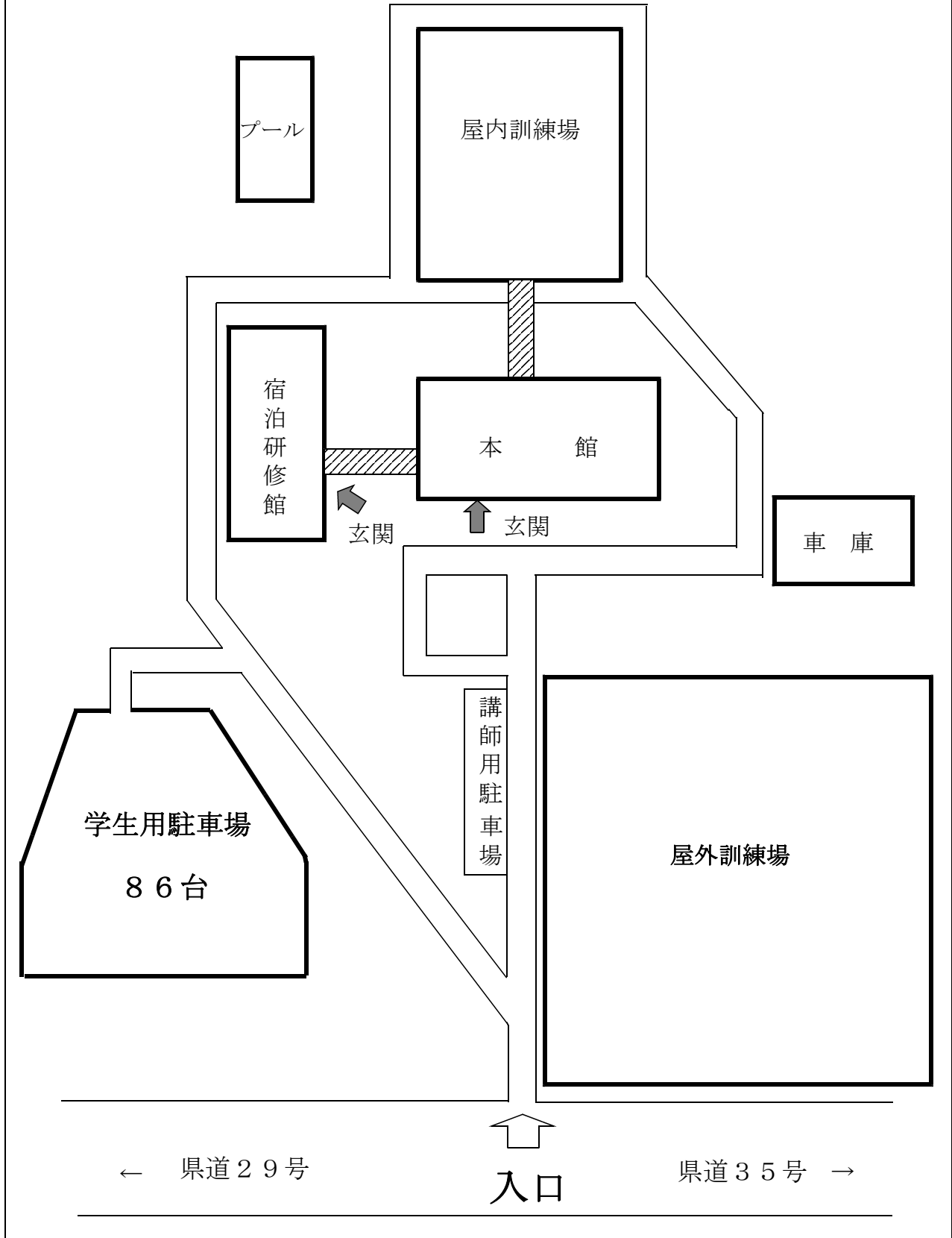
案内図

— 沖縄県消防学校 —



施設配置図

— 沖縄県消防学校 —



平成28年度
消防学校教育訓練実施計画

編集発行 平成28年1月発行
沖縄県知事公室消防学校
〒901-2423
沖縄県中頭郡中城村字北上原 910 番地
TEL (098) 895-7123 (代)
FAX (098) 895-5034
学生寮 (着信専用) (098) 895-6555
